

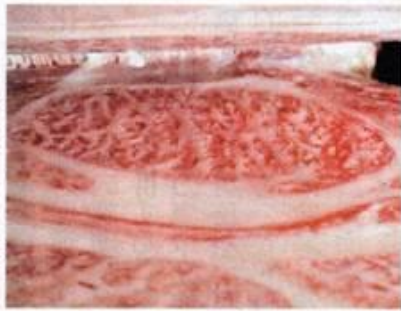
表 枝肉成績と血液検査値

処理	供試頭数(頭)	枝肉成績						血液検査値*		
		枝肉重量(kg)	肉質等級	胸最長筋面積(cm ²)	ばらの厚さ(cm)	皮下脂肪の厚さ(cm)	歩留基準値	BMS No.	AST (IU/L)	GGT (IU/dL)
RBM 給与	4	514	5.0	71	10.3	3.2	76	9.3	80 ± 55	41 ± 14
									61 ± 15	38 ± 8
無給与	4	504	4.5	56	9.8	3.3	74	7.3	53 ± 13	31 ± 10
									41 ± 16	29 ± 1

※血液検査値の上段はRBM給与開始前、下段は給与終了後の値。(正常範囲: ASTは40~80、GGTは40以下)

黒毛和種牛の枝肉成績 RBM製剤給与で向上 肝機能の改善にも有効

RBM給与牛の胸最長筋



黒毛和種肥育牛の脂肪交雑向上を目的に行われるビタミンAコントロール技術においては、牛の血中ビタミンA濃度を適切に制御するとともに、肝機能の低下などによる

現場で使える！研究成果

疾病が発生しないようケアすることが重要だ。そこで、強肝剤(ルーメンバイパスメチオニン製剤。RBM)の給与が枝肉成績と肝機能に及ぼす効果について、黒毛和種去勢牛(26カ月齢出荷)を用いて検討した。試験では20カ月齢から2カ月間、1日当たりRBM20gを飼料に添加して給与する区と給与しない区を設けて、枝肉成績などを比較した。その結果、RBMを給与すると枝肉成績が良好となり、特に胸最長筋面積が大き

くなった。

また、試験開始前の血液検査で肝機能低下が疑われる牛が給与区に2頭いたが、RBM給与により血液検査値が正常範囲へ改善される傾向が見られた。

以上の結果から、黒毛和種去勢肥育牛へのRBMの給与は、枝肉成績および肝機能の改善に有効であることがわかった。(農林技術開発センター)

